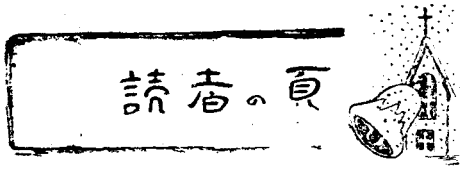

アメリカ通信

（谷藤正三君第1信）

皆様御元気のこゝと存じます。

小生 23 日午後2時乗船，8時出航，船は日本に始めて来たのだそうで日本人を乗せたのも始めてらしく，始めは此方も様子がわからずシャチコばつていたから大分煙たかつたらしい。5，6日かかつてやつと朝鮮戦線の話などが気楽に話せるようになりました。アメリカ婦人2名，日本人4名のお客さんだから和やかだが船の方が房総を出てからしけに会つて来る日も来る日も雨又雨2，3日はすつかり参つてしまいました。折角の飯もなかなかうけつけない有様。それでも4日目位から馴れました。15日の航海中太陽をみたのが僅か3日だけ，よくも荒れたものです。

「海図には指呼と思ほゆアリューシヤン秋荒雲の総べて閉しつ。親潮の怒濤に躍る黒船のしぶきを浴びて甲板に立つ。アリューシヤン寄道せよと船員に無默たのみしつ海に揉まれる」

11日5日早朝霧深いサンフランシスコ湾に入る。やつとブイが浮いて見えるので内海とわかるだけ。その中に霧にぼやけた Golden Gate Bridge をくぐり2時間半ばかりして Ohland Bridge をくぐつてやつと岸壁につく。

北米毎日社生岡繁樹氏がわざわざ出迎えに来てくれていたので上陸第一歩は全く順調，始めは外国にいる気分は全く出ない。午後 Golden Gate Park をドライブして，橋を視に海岸まで出ましたが霧が猛烈に深くなつてさつぱりわからぬ。良い加減にして帰つて来ました。

サンフランシスコは猛烈に坂が多い。道路は旧京浜に比べて良いとも思われないが振動は非常に少い。龜裂も所々に見られる。電車，ケーブルカーは 1952 年迄に全部取払つてバスとトロリーに変えるとのことです。特にそうゆう処の手入はあまりやつていません。軌道部の構造は日本に比べて非常にお粗末だが鋪装をちつとも痛めていないのが眼につく。どちらも基礎が良いのだらうと思われます。結局此方の方が経済的には得をしている。

自動車数はニューヨークの次とのこと，州全体として1人当り3台になるそうで，一寸我々の計算には出ない数字です。州全体として道路は隣接諸州に比して非常に良いと会う人が皆云つているので本当らしい。車も多いが盛場附近は目的の場所にすぐ Parking することが殆んど出来ないので結局歩かねばならず便利は不便をも伴う。1時間 5cents，15 分超せば2弗の罰金，この生活必需品も又悩みの種をつくつています。

夜下町に行つてみたがネオン中に人間が浮いているような錯覚を起す美しさにもびつくりしたが，車がちつとも前進しないのに又びつくり。とかく浮世はまゝにならぬ。

7日選挙で仕事にならず8日 Stanford に電話したが道路の見学には Federal Bureau of Informationの許可が要るというので海外事務所にかけ込んで調べて貰うよう無默な日を送る。結局当局ではそんなものは出したことがないから教授が慎重に考えすぎて mistake だらうとの話，明日会つて良く聞くつもりです。あまりあわてないことにしてぼつぼつやります Stanford Universityは実験室で十分でないから California Universityに行つて交通研究所に行つたらどうかと云う教授の話，結局サンフランシスコを拠点にして暫らく滞在します。明日から金曜まで Stanford に行きます。土，日休みで仕事出来ず，こうゆふときは暇になるのも考えものです。では又。

新刊紹介

倉塚良夫著　浄水工学（上巻）

250 頁，岩波書店刊行，25-6-25 発行，850 円

著者は，北海道大学名譽教授であつて，永年北大工学部土木教室に於て上水道の講義を担当され，又古くは大連市，近くは札幌市，その他多くの水道建設事業に直接計画指導に当られ，水道事業とその工学的研鑽に殆んどその一生を捧げた人である。

故博士は，その 40 年の永きに亘る自己の経験と研究に基く処を上梓せんとして起稿し，一時病のため中絶されたが健康回復後又執筆し，昭和 17 年3月停年退職後も尚努力を傾け，同年9月一先づ脱稿された。然しその 11 月不幸病魔に犯され満洲の地にて逝去された。本著書は博士の退職記念会の記念事業の一つとして，此の遺稿を出版したものである。

本書は，水道事業に於ける水質への関心を要望し，先づ此の上巻に於て，上水浄化法発達の歴史的瞥見に筆を起し，飲用水としての水質について述べ，水を通しての病気の伝播，理化学的並びに細菌学的各種試験，水源とその性質，普通沈澱の理論的考察並びに沈澱池の設計，凝集沈澱と各種凝集剤並びに操作，緩速濾過の機構並びに運営等について詳細に論じている。

記　　事

◎第7回理事会（昭.25.11.8）出席者：三浦会長，市浦，北村，国分，西松，丸安，米元各理事

協議事項：（1）灌漑及び水路委員会国際会議（明年1月ニューデリーにおいて開催）に時日切迫のため間に合わないかも知れないが土木部門代表として安芸皎一，石原藤次郎，後藤憲一の3氏を推薦し，尚同時期に大ダム会議及び洪水防禦会議に出席される伊藤令二，矢野勝正、佐藤清一の3氏を出席指定されるよう日本灌漑及び水路委員会を通じて申出ることゝする。（2）秋のエキスカーションは計画通り承認。（3）日本学術会議海外向年報編集に協力のことの内土木分野の進歩並びに趨勢は各理事から求めた資料に基ずき市浦理事編集することゝし，優秀論文については次回編集委員会にゆずることゝする。（4）アーク及びガス熔接工技術検定規格案について熔接協会え意見を附して回答のこと。（5）A. A. A. S. の2刊行物と土木学会誌とを交換することは日本学術会議に申入れること。（6）工業技術庁で製図に関する規格制定委員推薦方については福田武雄君に依頼すること。（7）土木学会誌裏表紙を昔のように英文表題とすることゝし編集委員会で審議のこと。

◎各種委員会

（1）編集委員会（昭.25.11.21）出席者：奥田委員長，米元副委員長，福田顧問外各委員，関西支部から小西委員出席。協議事項：（1）第36卷第1号登載論文決定，（2）日本学術会議年報の優秀論文は11月30日再び打合会を開き決定のこと，（3）講座欄にAEコンクリートを登載することゝし国分委員担当のこと，（4）学会誌の裏表紙に英文表題を登載すること（第36卷第1号より）（5）Sedimentation の論文寄稿方日発え依頼すること。

（2）用語委員会（昭.25.11.10）出席者：福田委員長外各委員，協議事項：測量用語第3回追加及び港湾用語審議

◎その他

（1）日本学術振興会で印刷中の"最近土木工学の概観"が12月中旬出来見込みで別項所載の通り頒布方依頼を受けた。

（2）日本工業技術庁標準部長主催"日本工業規格並びに表示制度普及"に関する懇談会（11月9日）が開かれ奥田理事出席懇談した。

（3）STAC事務局長千秋邦夫氏は科学技術行政視察のため渡米中であつたが11月中旬無事，所期の目的を達せられて帰朝されたと学会え挨拶があつた。

（4）在米宮森虎夫君，教育視察団小野竹之助君から便りがあつた。

支部だより

◎中部支部：11月講演会（11月6日）開催，参加者約300名，講演者鹿島建設常務取締役種谷実氏，演題"最近における米国の土木工事；折悪しく悪天候のため参加者の僅少となることを心配したが定刻を過ぐる頃には堂に満つる程になつた。米国における土木工事は現場及び事務的方面における機械化が徹底し，僅少の労力で相当な大工事が容易に実施せられ，特にわが国の最大の欠点である設計の完全な実施が現場員の末端に至るまで厳守せられているということは当然なことながら参加者に非常な感銘を与えたことゝ思う。映画は天然色が多く，殊に幻燈による工事実況の説明は非常に有効であつた。定刻を大分超過したが種谷氏の熱心な御講演と懇切な説明に傾聴する会員には殆んど中座するものもなく非常な成果を得た。

誌上を以つて種谷氏始め鹿島建設名古屋支店の諸氏及び会場その他に多大の御援助を賜わつた名古屋鉄道管理局の諸氏に厚く感謝する次第である。

◎関西支部：関西都市道路研究会と共同主催で11月10日講演会を開催した。

講演者　鹿島建設常務取締役　種谷　実氏

演　題　米国におけるダムについて

映画及び幻燈

参加者　113名

終了後座談会を開催し，雨天にも拘らず長時間熱心な参加者に至大の感銘を與えた。

◎秋のエキスカーション（昭.25.11.12）

台風が近ずくかも知れないというありがたくない中央気象台の予報であり，うすら寒く低い雲が気がかりであつたが，総勢約70名の参加者が2台の貸切りバスに分乗して，予定通り8時30分，東京駅降車口から出発，新京浜国道を横浜に向う。

横浜で，神奈川縣庁，市水道局，建設局から，案内をかねて参加したもの11名，総計82名が自動車6台を連ねて見学予定の地に向つた。

参加者の中には，遙々鹿児島から来られた方もあり長老，中堅，新進と全く多彩な顔ぶれである。

最初の見学予定地，横浜市水道鶴ケ峰導水路工事現場に予定より約30分遅れて到着，井深市拡張課長の説明を聞き，大林組施行中の現場を見学する。この工

事は 2.2 m×2.4 m の開渠で川井鶴ケ峰間 7 134 m を結ぶものである。

続いて，11 時 30 分座間にある，進駐軍住宅工事現場に到着，特別調達庁野上技官の一般的の説明の後，特に住宅地内の道路舗装工事を見学，丁度日曜日の為 road finisher は運転されていなかつたが，立派なコンクリートが施工されているのに興味をそゝられ，住宅地を一周して麻溝貯水地に向つた。

12 時 30 分麻溝着，横浜市水道の調節，沈泥の目的で作られたこの貯水池は，本堰堤最高 19.5 m，副堰堤 8.5 m の高さの土堰堤で出来ており，有効貯水量 790 000 m³ である。西松建設が主として重機械を用いて施工中のもので現在約 70% 完成されている。現場に着いて見ると，土堰堤で四周をかこまれるこの貯水池が，どこが本堰堤でどこが副堰堤であるかわからない。赤土が，昨夜来の雨でぐちやぐちやになつている中をシープフートローラが行きつもどりつして輾圧に大童である。ここで一同記念撮影をする。

西松建設の工事事務所で昼食をとり乍ら，市水道局長国富氏の挨拶があり，井深氏の説明をきく。色々質問も出て中々賑かである。 13 時 30 分麻溝を出発，八王子，小仏を経て相模ダムに向う。紅葉した小仏峠を通る時分には，心配した天気も漸く落つき所々に青空が見える。何度来ても秋の相模湖は綺麗である。こゝで予定の時間をとりもどし，15 時 30 分与瀬を出発，最後の見学地，青山浄水場に向う。こゝからは今までのコンクリート舗装と異り，山間を縫う砂利道となる。時々大きくゆれるので今までの睡気もさめる。青山水源地到着 16 時，庭園のような浄水場を見学，こゝで2つの会場にわかれて晩餐会が始まる。気分が次第に高調するにつれ，土木の大先輩達が真先に立つて歌う和やかな気分につゝまれて，若いものも一緒になつて食い，かつ飲み，楽しい時間を過し，2 時間半の間，今迄の疲れを忘れて歓談 19 時青山発帰途につく

一番心配だつた天気も，予報を裏切つて我々一日のエキスカーションに幸する。今迄にない盛会裡にエキスカーションが無事終了した。

横浜市をはじめ，種々面倒をみていただいた諸会社の好意に深く謝意を表する次第である。参加者氏名(申込順)は次の通りである。

会員: 近藤謙三郎，岡部達郎，田村浩一，後藤幸正，八十島義之助，川崎五郎，吉野伝作，高田栄一，宮長平作，伊藤悦郎，芦沢五一，河村安之助，瀬上鉱造，牧野巌，松田泰二，広田憲治，矢ケ崎収一，及川林市，吉越盛次，丸山勘治，武居省之，只野富蔵大塚浅次郎，星埜和，楠宗道，神谷貞吉，柳瀬晃，星野忠男，平井喜久松，中村清照，金井邦夫，福田武雄，河野正吉，主浜実，佐々木幹吾，佐久間貞二田中寅男，工藤久夫，岡村愛一，寺戸喜之，黒田武定，佐藤志郎，西尾辰吉，三木五三郎，三森利夫，津川潔，吉野正範，沼田政矩，鵜飼孝造，山口直樹衣斐清香，小宅習吉，浜地辰助，佐々木奥志，山本格，松下秀樹，岡田信次，橋口行彦，望月力男，池辺稲生

神奈川縣土木部: 庄司儀夫，三村申正，小田島利八，永瀬肇，戸部功二

横浜地方特別調達局: 野上彌四郎

横浜市役所: 坂上丈三郎，国富忠寛，西畑忠雄，井深功，森田秀夫

学会役員: 三浦義男，大西英一，佐藤寛政，西松醇厚仁杉巌，市浦繁，丸安隆和

学会職員: 中川一美，朝倉孝一，堀内清次，捧箸伴六

記　念　撮　影

入　退　会　報　告 (11月中)

1. 入　会	113 名	(特別員 5,	正　員 37,	准　員 38,	学生員 33)	
2. 復　活	27 名	(正　員 21,	准　員 6)			
3. 退　会	12 名	(正　員 3,	准　員 8,	学生員 1)		
4. 死　亡	2 名	(正　員 1,	准　員 1)			

会　員　現　在　数 (昭.25.11.30)

名誉員	賛助員	特別員	正　員	准　員	学生員	計
12	15	151	3 127	5 730	845	9 880

DOBOKU-GAKKAI-SHI

VOL. XXXV. NO. 12, Dec. 1950

(JOURNAL OF THE JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS)

CONTENTS

Papers **Page**

On a Systematic Calculation of the Gradually Varying Flow in Open Channel ..... *M. Homma* 1

On the Suitable Plates for the Terrestrial Photogrammetry and Their Treatment ..... *T. Maruyasu* 4

On the Impact of Simple Beam ..... *S. Okamoto, K. Yasunaka* 8

Studies on the Thin Sheet Flow (2nd. Report) ..... *Y. Iwagaki* 10

Creep in Pre-Stressed Concrete ..... *K. Kubo* 15

Construction of the Uno-Takamatsu Ferry Facility ..... *I. Ishida, R. Murata, Y. Tomita* 19

Method of Designing Piano Wire Concrete Girders (Abstract) ..... *I. Nisugi* 24

Tests on Construction Joints of Concrete (Abstract) ..... *M. Kokubu* 25

Reference Data 28

Abstracts 37

Lecture 43

News 46

Voice 49

OFFICE

No.4 2-CHOME, OTE-MACHI CHIYODA-KU, TOKYO, JAPAN.

編　集　後　記

トルーマン大統領が遂に非常事態を宣言しました。如何に寒い冬とは云え，熱い戦争は余り有難くありません。しかし自由と平和を護る為ならば私達は許された範囲で最大の努力を致すべきでしよう。

慌たゞしい国際情態を孕んで昭和25年も旬日を出でずして終ろうとしています。国内においては戦災の復興も漸く本格的となり，各地に大規模な工事が始められているようです。国土の建設に携わつておられる会員の皆様は各々の立場で「来年こそは」と云う希望に満ち満ちておられることゝ思います。

学会の動きもほゞ戦前の状態に復活することが出来ました。皆様の御尽力により学会誌が毎月出せるようになつたことは何と云つても今年の最大の収獲でありましよう。来年は頁数の増大と内容の充実を主眼として，皆様の御期待に副うべく編集部一同張切つておりますから何卒一層の御協力の程御願い申上げます。

では皆様何卒良い年をお迎え下さい。

× × ×

本号の担当は丸安，樽井，岩塚の諸氏でした。

昭和25年12月25日 印刷　土木学会誌　定価 80円

昭和25年12月30日 発行　第35巻 第12号

編集兼発行者　東京都千代田区大手町2丁目4番地　中川一美

印刷者　東京都港区溜池町5番地　大沼正吉

印刷所　東京都港区溜池町5番地　株式會社 技報堂

東京都中央局区内千代田区大手町2丁目4番地　電話丸の内(23)3945番

発行所　社團法人 土木学会　振替東京16828番